

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第28週 2023年7月10日（月）～ 2023年7月16日（日） 2023年7月20日作成

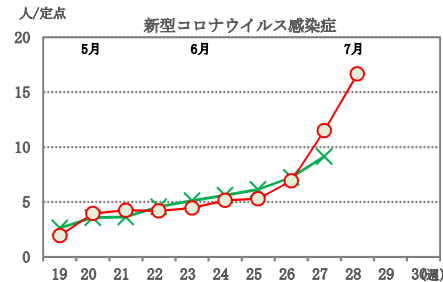
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）新型コロナウイルス感染症

第28週の報告数は1166人で、前週より361人多く、定点当たりの報告数は16.66であった。

年齢別では、10～14歳（228人）、15～19歳（131人）、40～49歳（117人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、上五島保健所（24.67）、県北保健所（22.25）、長崎市保健所（21.88）であった。

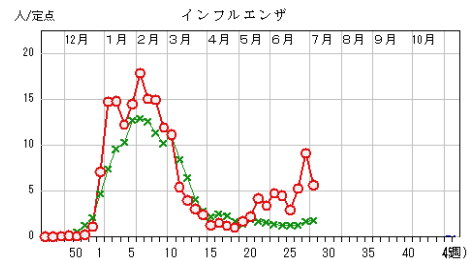


### （2）インフルエンザ

第28週の報告数は395人で、前週より244人少なく、定点当たりの報告数は5.64であった。

年齢別では、10～14歳（102人）、9歳（40人）、5歳（31人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（10.12）、県央保健所（8.82）、県北保健所（6.25）であった。

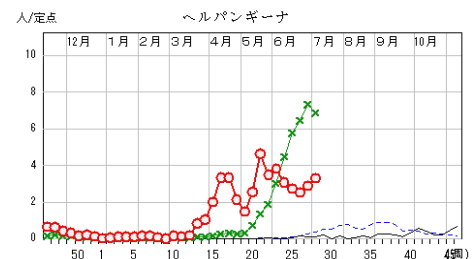


### （3）ヘルパンギーナ

第28週の報告数は145人で、前週より18人多く、定点当たりの報告数は3.30であった。

年齢別では、3歳（30人）、4歳（28人）、1歳（21人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（7.29）、県北保健所（6.67）、西彼保健所（5.00）であった。



○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
× 当年(全国)      - - - 前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【新型コロナウイルス感染症】

第28週の報告数は1,166人で、前週より361人多く、定点当たり報告数は16.66でした。地区別では、上五島地区（24.67）、県北地区（22.25）、長崎地区（21.88）が他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【インフルエンザ】

第28週の報告数は395人で、前週より244人少なく、定点当たりの報告数は5.64でした。地区別にみると、長崎地区（10.12）は他の地区より多く、3週続けて注意報レベル基準値「10.0」を超えています。多くの地区で前週より減少しましたが、今後も予防に努めましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【ヘルパンギーナ】

第28週の報告数は145人で、前週より18人多く、定点当たりの報告数は3.30でした。地区別にみると、県央地区（7.29）、県北地区（6.67）は他の地区より多く、警報レベルの報告数が続いています。今後も動向に注意が必要です。

本疾患は、発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。4歳以下の乳幼児が中心で、例年6月から7月に患者数のピークが認められます。

主な原因はエンテロウイルスです。県内で4-6月に採取された検体から、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスA2、A4、A10、B5が検出されています。

エンテロウイルスの感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

**☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう**

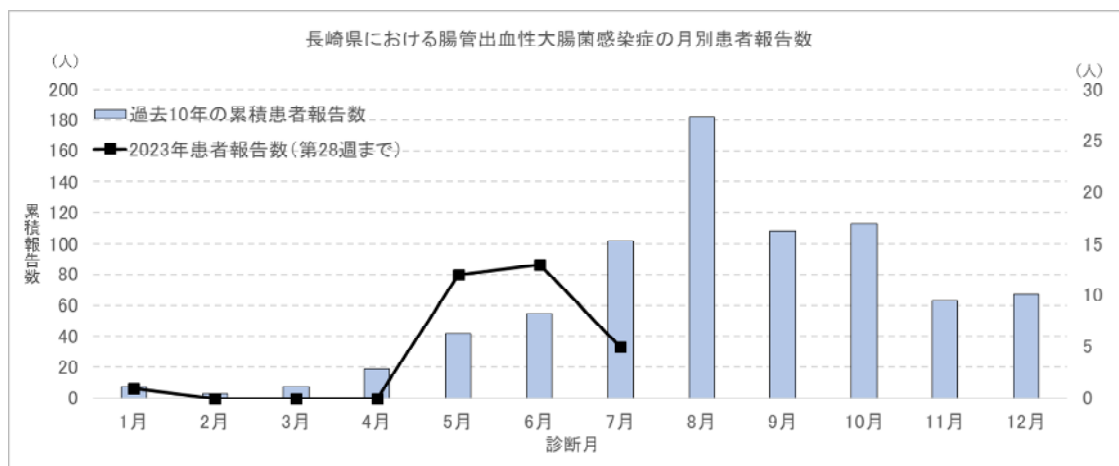
腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。

主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2～9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6～7%が、溶血性尿毒症症候群や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内では、2023年第28週までに腸管出血性大腸菌感染症が31例報告されています。

例年夏に患者数が増加する傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。症状があるときは医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう



☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

2023年第28週の定点当たりの報告数は、「5.64」で前週より減少しました。全国では4番目に多くなっています。長崎県は2022年第52週に流行入りして以降患者数は増加し、第6週にピークを迎えました。その後患者数は減少しましたが、第19週に再び増加に転じ、流行の目安である「1.0」を超えた状態が継続しています。

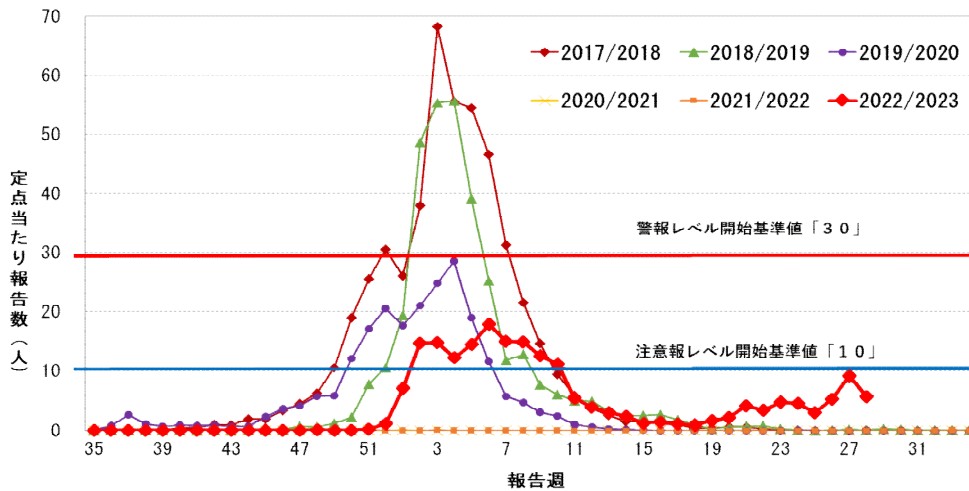
地区別にみると、多くの地区で前週より減少しましたが、長崎地区(10.12)は3週続けて注意報レベル基準値「10.0」を超えています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

(参考)厚生労働省 インフルエンザ総合ページ(外部のページに移動します。)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html)

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



☆トピックス：梅毒の報告数が過去最多となっています

長崎県では2023年第28週までに**62件**の梅毒の報告があり、**過去10年の中で最多であった2022年の58件を上回っています**。男性が多く、年代別にみると20代が全体の約半数を占めています。また、妊娠中の4名の報告もあがっています。

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する(=先天梅毒)経路があります。

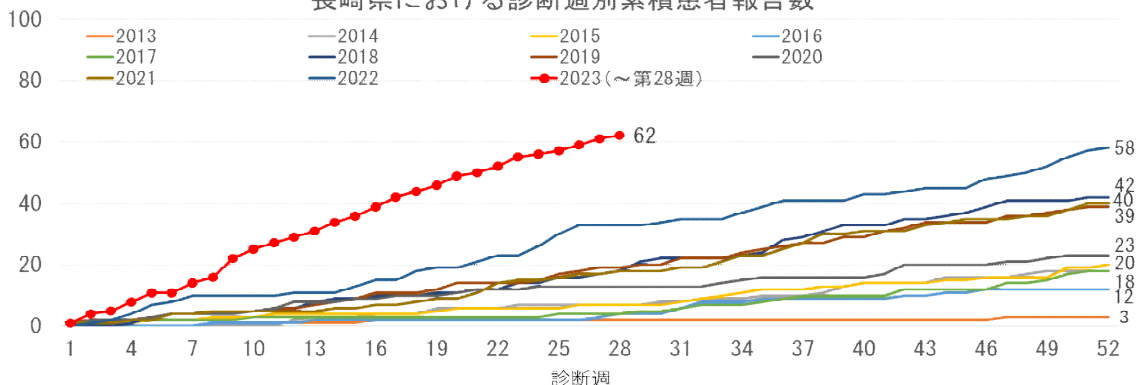
感染後3~6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変(初期硬結、リンパ節腫脹等)、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変(バラ疹や梅毒疹等)や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年~数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます(事前の連絡・予約が必要)。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

(参考)国立感染症研究所 梅毒(外部のページに移動します。)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis.html>

長崎県における診断週別累積患者報告数



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第28週：7月10日から7月16日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

2023年第28週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週の「11.50」より増加し、「16.66」でした。壱岐、対馬を除くすべての地区で前週より増加しています。また、年齢別では、10代、10歳未満が多くなっています。

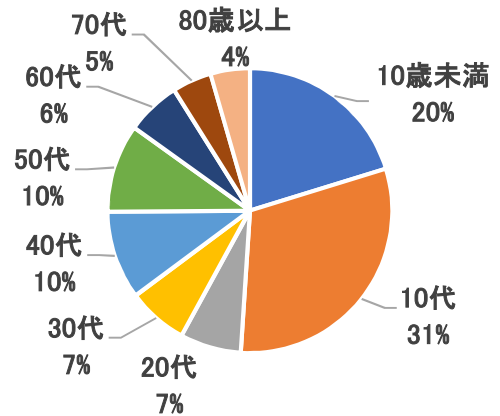
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	1166	372	164	111	166	165	89	10	74	7	8
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	16.66	21.88	14.91	18.50	15.09	20.63	22.25	2.50	24.67	2.33	2.67

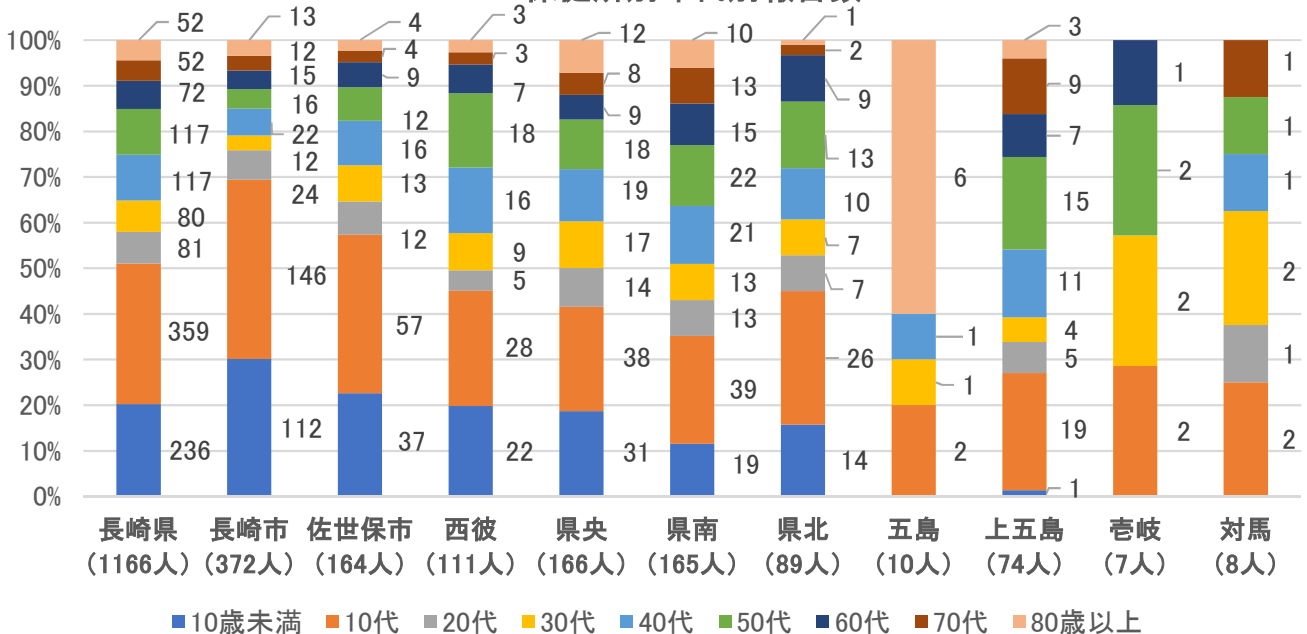
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



◆全数届出の感染症

- 2類感染症： 結核 患者 女性（80代以上・2名）  
無症状病原体保有者 女性（40代・1名、80代以上・1名）
- 3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（60代・1名）  
無症状病原体保有者 男性（50代・1名）、女性（50代・1名）
- 4類感染症： レジオネラ症 患者 男性（50代・1名、70代・1名）
- 5類感染症（全数把握対象）： 梅毒 患者 男性（60代・1名）  
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（60代・1名、80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第23～28週、6/5～7/16)

疾患名	定点当たり患者数					
	23週	24週	25週	26週	27週	28週
	6/5～	6/12～	6/19～	6/26～	7/3～	7/10～
インフルエンザ	4.73	4.47	2.94	5.26	9.13	5.64
新型コロナウイルス感染症	4.46	5.14	5.29	6.93	11.50	16.66
RSウイルス感染症	2.02	1.80	1.75	1.84	1.75	2.09
咽頭結膜熱	0.61	0.48	0.25	0.25	0.18	0.18
A群溶血性链球菌咽頭炎	1.43	1.23	1.05	1.80	2.14	2.14
感染性胃腸炎	2.86	2.11	2.59	2.30	2.50	2.34
水痘	0.16	0.05	0.07		0.16	0.18
手足口病	0.75	0.68	0.64	0.73	0.93	1.50
伝染性紅斑（リンゴ病）						
突発性発しん	0.48	0.32	0.20	0.34	0.20	0.43
ヘルパンギーナ	3.82	3.07	2.73	2.52	2.89	3.30
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.05	0.02	0.11	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	0.13	0.25		0.13	0.13	
流行性角結膜炎	0.75		0.38	0.25	0.25	0.50
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎				0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎	0.08			0.08		
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第28週、7/10～7/16) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	5.64	4.55	10.12		1.33	8.82	5.00	6.25	0.75		
新型コロナウイルス感染症	16.66	14.91	21.88	2.33	18.50	15.09	20.63	22.25	2.50	24.67	2.67
RSウイルス感染症	2.09	4.00	1.90		0.75	1.71	2.80	4.33	0.33		3.00
咽頭結膜熱	0.18		0.40		0.25	0.43					
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.14	0.17	0.20			1.86	14.40	1.33			1.00
感染性胃腸炎	2.34	7.00	1.40		4.00	1.71	1.20	4.00	0.33		
水痘	0.18		0.50			0.29				0.50	
手足口病	1.50	0.83	3.30		2.00	2.14	0.20	1.00	0.33		
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.43	0.33	0.40		0.25	1.29	0.20	0.67			
ヘルパンギーナ	3.30	1.50	3.00		5.00	7.29	1.80	6.67	0.67	0.50	1.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.20								
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.50						4.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎											
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											